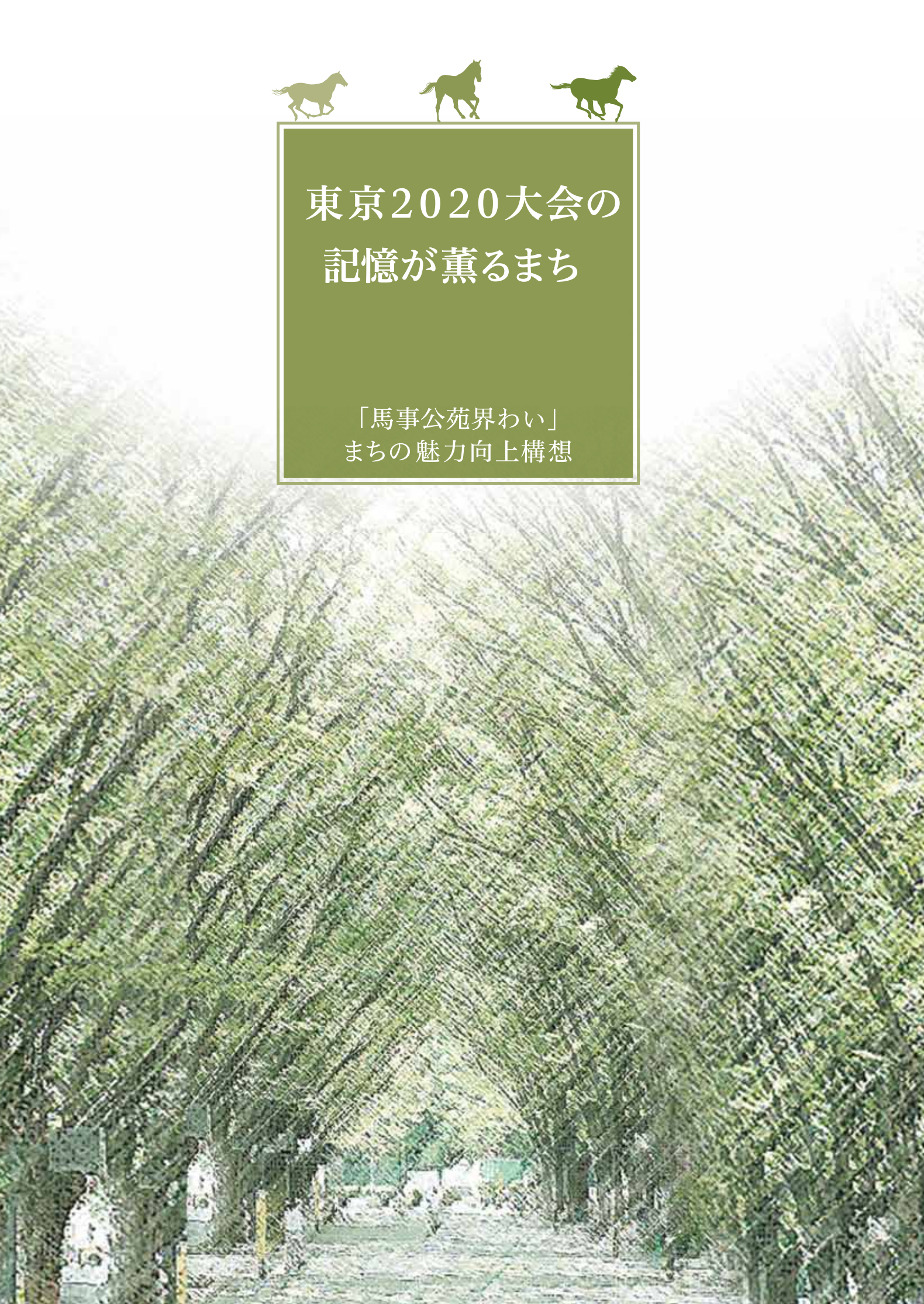




東京2020大会の 記憶が薫るまち

「馬事公苑界わい」
まちの魅力向上構想



「馬事公苑界わい」まちの魅力向上構想 ～東京2020大会の記憶が薫るまち～

はじめに _____ ページ 1

I 「馬事公苑界わい」まちの魅力向上構想について 3

1. 構想の位置づけ
2. 構想の役割
3. 構想の活用方法
4. 構想の全体構成

II 「馬事公苑界わい」の特徴 6

III 「馬事公苑界わい」の将来像 8

IV 魅力向上に向けたコンセプトと方針 10

V 魅力向上に向けた取組み 12

VI 段階ごとの魅力づくり 30

はじめに

2020年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京2020大会」という)が開催され、1964年の東京大会に引き続き、馬術競技の多くが馬事公苑で行われます。開催にあたっては、海外から多くの方々が日本を訪れることになり、特に東京には国内の方々も含め、今まで以上に様々な国の方々が集まってきます。半世紀ぶりに東京で開催される今回の大会を、最大限に盛り上げ、訪れる様々な国の多様な方々を笑顔で温かく迎えたいと考えています。そこで区は、「2020年に向けた世田谷区の実践的取組み ～東京2020大会後を見据えて～」を策定し(平成29年1月)、様々な分野の取組みを進め、区の将来に価値ある多くのレガシーを創出していきます。

“「馬事公苑界わい」まちの魅力向上構想”は、東京2020大会を通じて区民と来訪者が馬事公苑を取り巻くまちの魅力を共有し、その後にもかけがえのない思い出が残る、“東京2020大会の記憶が薫るまち”の創出を目指しています。東京2020大会は“ゴール”ではありません。区民がその誇りを胸に、後世にまちの魅力を伝えていくことは、その先50年さらには100年とレガシーとして続いていくことになります。

これからの「馬事公苑界わい」は、今日から始まる夢の積み重ねです。「馬事公苑界わい」の明日のためにデザインコンセプトをまとめ、息の長い、着実なまちづくりに取り組んでいきます。本構想が、区民と行政が協働で夢を積み上げ、多くのレガシーを創り出していくための礎になれば幸いです。

世田谷区

【レガシー】国際オリンピック委員会が定めたオリンピック憲章には、「オリンピック競技大会の有益な遺産(=レガシー)を、開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励する」と記載されています。区では、東京2020大会を契機として、スポーツや文化、教育などの様々な分野で残っていく有形・無形の遺産のことを「レガシー」と捉えています。例えば、大会を契機に「区民のスポーツ実施率が向上した」、「ボランティア活動をする区民が増えた」、「子どもたちの国際理解が進んだ」といったことがレガシーとして挙げられます。

オリンピック・パラリンピックにおける 馬術競技

【オリンピック】

第2回パリ大会(1900年開催)から馬術はオリンピック競技になりました。

馬術はオリンピック競技で唯一、動物と一緒に行う競技です。また、すべての種目において男女の別がありません。これは馬術競技が体力の勝負というよりも、いかに馬をうまく操るか技術的な熟練度と華麗さがポイントとなるからです。

選手はパートナーである馬と協調して競技に挑むため、選手が馬の能力を最大限に引き出し、馬も選手の要求に精一杯こたえる「人馬一体」が求められます。

この人馬一体を体現した言葉として、日本で唯一メダルを獲得した1932年の第10回ロサンゼルス大会大障害飛越競技の金メダリスト西竹一選手(ウラヌス号)はインタビューで「We won (我々(自分とウラヌス号)は勝った)」と応じ世界の人々を感動させました。

【パラリンピック】

障害のある人たちの乗馬は、当初リハビリ目的で行われていました。古代ギリシャ時代には傷を負った兵員のリハビリに乗馬が活用され、20世紀に入ると理学療法の一環として乗馬を用いるようになりました。馬術競技は1984年のニューヨーク・ストークマンデビルパラリンピック大会ではじめて行われ、1996年のアトランタ大会からは、連続して正式競技となっています。日本代表選手団は2000年のシドニー大会から参加しています。

I

「馬事公苑界わい」 まちの魅力向上構想について

1. 構想の位置づけ

本構想は、東京2020大会を盛り上げ、また開催後には、区に多くのレガシーを創出するため、「2020年に向けた世田谷区の取組み～東京2020大会後を見据えて～」(平成29年1月策定)などを踏まえ、「馬事公苑界わい」の魅力向上に向けた取組みをまとめたものです。

2. 構想の役割

本構想は、東京2020大会開催期間中や、その後のレガシーによる「馬事公苑界わい」の魅力向上のためのガイドラインとなるもので、具体的な取組みについても言及したものです。

3. 構想の活用方法

東京2020大会に向けた「馬事公苑界わい」のハード面やソフト面の街並み整備を進めるにあたっては、この構想の「魅力向上に向けたコンセプトと方針」の考え方を基本とし、各々の地域特性などを活かしながら進めます。

4. 構想の全体構成

I 「馬事公苑界わい」まちの魅力向上構想について

3ページ

1. 構想の位置づけ

東京2020大会を盛り上げ、また開催後には、区に多くのレガシーを創出するため、「馬事公苑界わい」の魅力向上に向けた取組みをまとめたもの

2. 構想の役割

「馬事公苑界わい」の魅力向上のためのガイドラインとなるもの

3. 構想の活用方法

「馬事公苑界わい」のハード面やソフト面の街並み整備を進める上で、考え方の基本とする

4. 構想の全体構成

6ページ

II 「馬事公苑界わい」の特徴

馬事公苑周辺

みどり豊かな住宅地や特徴ある風景が広がる落ち着いた雰囲気のある界わい

最寄り5駅周辺

商店街の広がるにぎわいのある界わい

8ページ

III 「馬事公苑界わい」の将来像

馬の丘 エクエストリアン

(馬術競技)エリア

馬を身近に感じながら、みどり豊かな環境で、心地よく過ごせるまち

五色のにぎわい パレットエリア

歴史と文化を大切にし、交流とにぎわい、活力のあるまち

IV 魅力向上に向けたコンセプトと方針

10ページ

将来像に沿った3つのコンセプトの設定と、より具体化した6つの方針に基づくまちづくりの推進

将来像に沿った3つのコンセプト

1
人々が協力し
連携する、安全・安心の
まちづくり

2
多様な人々が集う
明るく楽しい
雰囲気づくり

3
魅力あふれる
オリジナルデザイン
によるまちの演出

コンセプトを具体化した
6つの方針

1 | 人々の関わり

2 | まちへの愛着

3 | ユニバーサル
デザインのまち

4 | まちの個性

5 | まちの記憶

6 | まちの資源

V 魅力向上に向けた取組み

12ページ

方針を実現化するための取組み

- 1 安全な歩行者空間の確保
- 2 公共交通施設のユニバーサルデザインの促進
- 3 サイン整備
- 4 環境への配慮
- 5 防犯への取組み
- 6 まちなかのお休み処の確保
- 7 公共トイレの改修
- 8 Wi-Fiの整備
- 9 応援キャラクターを活用した気運醸成
- 10 フラッグなどの作成
- 11 みどりによる演出
- 12 まちのユニフォームの作成・活用
- 13 「がやリン」を活用した演出
- 14 商店街の一体感の醸成
- 15 ホスピタリティの充実
- 16 観光案内の充実
- 17 パブリックアートやベンチの設置
- 18 まちを盛り上げるイベントの開催
- 19 ごみ収集の工夫
- 20 まちの情報発信

30ページ

VI 段階ごとの魅力づくり

東京2020大会までの期間、開催中、そしてその後の3ステップにわたる段階ごとの魅力づくり

ステップ1 開催に向けた効果的な整備

ステップ2 東京2020大会期間中のおもてなしの実行

ステップ3 未来に向けて

II

「馬事公苑界わい」の特徴



①千歳船橋駅前



③長島大榎公園界わいの緑



④経堂農大通り商店街のハートフルファミリー



②玉石垣のある風景



④経堂駅前



⑬けやき広場



⑬馬事公苑のせたがやふるさと区民まつり



⑤世田谷線のある風景



⑥代官屋敷



⑥世田谷ポロ市(大山道)



⑦弦巻プロムナード



⑧双子の給水塔



⑧ねぶた祭り(桜新町)



⑨桜新町駅前の桜並木



⑨桜新町駅付近にあるサザエさん像



⑩いらかみち



⑩用賀駅前



⑩馬のいる風景



⑩馬事公苑西側の高低差のある地形

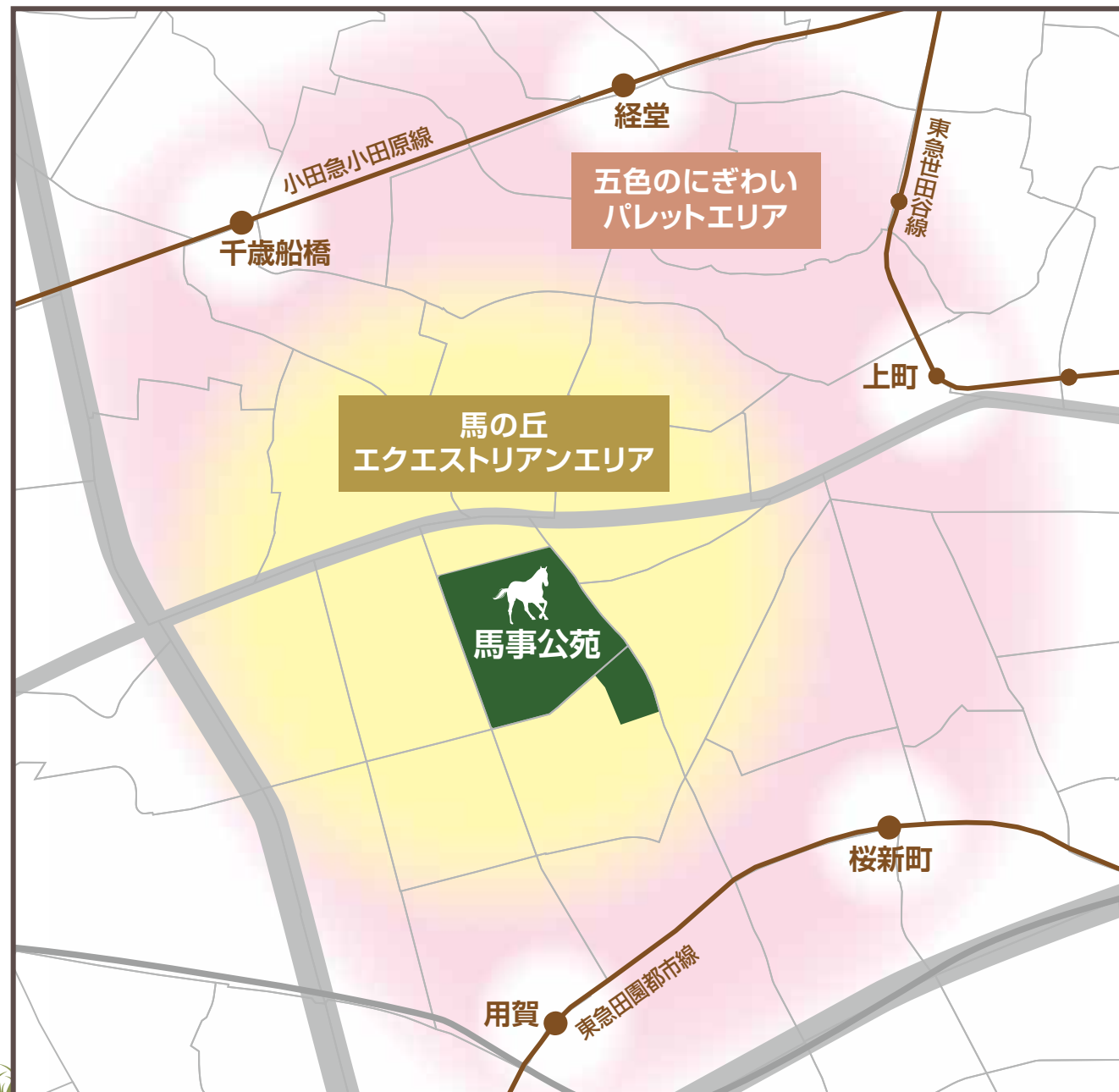
「馬事公苑界わい」は、多くの地域資源があり、祭りなどのイベントも多く開催され、様々なコミュニティ活動が活発な地域です。馬事公苑周辺エリアは、みどり豊かな住宅地や特徴ある風景が広がる、落ち着いた雰囲気のある界わいです。最寄り5駅(千歳船橋駅、経堂駅、上町駅、桜新町駅、用賀駅)を中心としたエリアは、商店街の広がるにぎわいのある界わいです。

Ⅲ

「馬事公苑界わい」の将来像

東京2020大会では、世界中から多くの人々が馬事公苑を訪れます。ある人は歩いて、ある人はバスに乗って、ある人は電車に乗って。商店の街並みや住宅地を通り、まちの魅力を感じながら。

本構想において「界わい」は、馬事公苑から最寄りの5駅までを取り巻くエリアとしました。馬事公苑周辺を「馬の丘エクエスティアンエリア」、5駅を中心としたエリアを「五色のにぎわいパレットエリア」とし、各エリアの特徴を活かした魅力の向上を進めていきます。



馬の丘 エクエスティアンエリア

界わいの中では、馬事公苑近辺の標高が最も高くなっています。馬と触れ合えるイベントの実施や、公苑を一般開放していることから、地域住民にも身近に感じられる場所です。

また、東京2020大会では馬術競技 (Equestrian) が開催されることから、身近な場所で行われる競技になじみをもってもらいたいという願いがこめられています。

【特徴】

主に、緑豊かな低中層住宅地であり、馬事公苑を中心に、自然を感じられるスポットがあるエリアとなっています。

エリアの将来像

**馬を身近に感じながら、
みどり豊かな環境で、
心地よく過ごせるまち**

ゆとりあるみどり豊かな美しい住宅地であると同時に訪れたいまちにもなっています。馬と身近にふれあえる憩いの場として、馬事公苑が多くの人に知られています。

五色のにぎわい パレットエリア

東京2020大会を契機として、馬事公苑から最寄り5駅周辺はこれまでの独自のコミュニティ空間としてのにぎわいから、さらにそれぞれの商店街や暮らしている人たちの特色ある色が重なり、カラフルになっていくことが予想されます。そして、それは東京2020大会後も残り、続いていくものです。

これから様々な色がつくられはじめる地域全体をパレットと見立てました。

【特徴】

各駅に活気ある商店街があり、にぎわいを見せています。また、代官屋敷や桜新町の桜並木など、地域資源が豊富なエリアです。

エリアの将来像

**歴史と文化を大切にし、
交流とにぎわい、
活力のあるまち**

活気や生活感にあふれる商店街や、地域に根ざしたイベント、昔からある歴史・文化などの地域資源を活用し、界わいに多くの人々が訪れるようになっています。

IV

魅力向上に向けた コンセプトと方針

「馬事公苑界わい」の生い立ちや特徴、そこから見出される将来像、また、東京2020大会を契機に多くのレガシーを創り出していくといった観点から、3つのコンセプトと6つの方針で魅力向上に取り組みます。

3つのコンセプト

2

多様な人々が集う 明るく楽しい雰囲気づくり

東京2020大会では、国籍、年齢、性別などを問わず多様な人々が今以上に「馬事公苑界わい」を訪れます。人々が気軽に話しかけあうことなどで様々な立場への理解が進み、明るく楽しい雰囲気が界わいに広がります。

訪れる人がコミュニケーションしやすいまちを創り出していきます。

1

人々が協力し連携する、 安全・安心のまちづくり

馬事公苑の周辺にはみどり豊かな住宅街が広がっています。また、駅周辺などには商店が連なりにぎわいのある場所があります。

暮らしの息づかいを大切に、東京2020大会の開催時には訪れる人も住んでいる人も、ともに安全で安心していただけるまちの環境を創り出し引き継いでいきます。

3

魅力あふれる オリジナルデザインによる まちの演出

馬事公苑の馬をはじめ、地元で愛されるキャラクター、祭りなどのイベント等、そのまちならではの魅力があります。

そのような魅力がまちへの愛着を高め、自然と人々の心をひきつけます。今あるまちの魅力をさらに高めるまちづくりを進めていきます。

6つの方針

1

人々の関わり

- ◆パブリックな空間を見守り育む活動を大切にします。
- ◆人々の目が行き届き、安全と安心を感じられる界わいをつくります。



2

まちへの愛着

- ◆まちの個性を感じられるまちの整備を進めます。
- ◆暮らしている人々が自慢できるようなまちのデザインを工夫します。



3

ユニバーサル デザインのまち

- ◆国籍、年齢、性別、能力に関わらず気持ちよく暮らせ、また訪れることのできるまちにします。
- ◆多様な人々が交流しあえる環境をつくります。



4

まちの個性

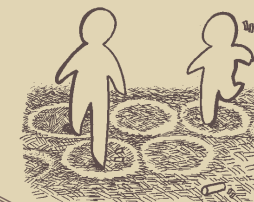
- ◆それぞれのまちの特徴を伸ばすデザインを取り入れます。
- ◆調和とやさしさを感じられるオリジナルデザインに取り組みます。



5

まちの記憶

- ◆東京2020大会の記憶が残る界わいづくりを進めます。
- ◆まちの変遷を感じられる工夫を取り入れます。



6

まちの資源

- ◆それぞれのまちの風景を大切にします。
- ◆新たな取り組みを未来の資産となるよう育みます。



「馬事公苑界わい」の 魅力向上

魅力向上に向けた取組み

東京2020大会に向けた具体的な取組みは、6つの方針を基本的な考え方として捉えながら、まちの将来像を見据えた様々な事業です。その中には、既に取り組んでいるものやこれから詳細を検討するもの、地域の皆様のご協力を頂きながら引き続き未来に向けて進めていくものまで様々です。目指すべき将来像や「魅力向上に向けたコンセプトと方針」に沿った取組みはまだまだ増えていく可能性も秘めています。

6つの方針を実現化するための取組み

- | | |
|------------------------|--|
| ① 安全な歩行者空間の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 区道の一部区間の電線類地中化事業実施 一部区間の街路灯の整備 道路通称名の設定 道路標識の英語併記化 馬事公苑周辺の交通環境改善の検討 舗装や視覚障害者誘導用ブロックの補修・改善 |
| ② 公共交通施設のユニバーサルデザインの促進 | <ul style="list-style-type: none"> 施設の改善の検討とベンチの整備やバス停の改良 |
| ③ サイン整備 | <ul style="list-style-type: none"> 最寄り5駅から馬事公苑までのサイン整備 デジタルサイネージの設置 |
| ④ 環境への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> 街路灯のLED化の促進 省エネルギー技術の積極的な導入 遮熱性舗装などの整備 |
| ⑤ 防犯への取組み | <ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの適切な配置 まちなかの死角となるような場所の有無を調査・改善 |
| ⑥ まちなかのお休み処の確保 | <ul style="list-style-type: none"> 公共施設の開放 空き店舗などの活用 |
| ⑦ 公共トイレの改修 | <ul style="list-style-type: none"> 和式便器の洋式化など |

- | | |
|---------------------------------|---|
| ⑧ <small>ワイファイ</small> Wi-Fiの整備 | <ul style="list-style-type: none"> 無料のWi-Fiアクセスポイントの整備 |
| ⑨ 応援キャラクターを活用した気運醸成 | <ul style="list-style-type: none"> 応援キャラクターなどの作成・活用 |
| ⑩ フラグなどの作成 | <ul style="list-style-type: none"> まちの魅力づけのためのPRフラッグの作成 |
| ⑪ みどりによる演出 | <ul style="list-style-type: none"> 植栽やフラワーポットによる演出 みどりのネットワークの形成 |
| ⑫ まちのユニフォームの作成・活用 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なボランティア活動のユニフォームの作成 |
| ⑬ 「がやリン」を活用した演出 | <ul style="list-style-type: none"> オリジナルなデザインや色を使った飾り付けなど、気運盛り上げの実施 |
| ⑭ 商店街の一体感の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> 共通のグッズなどにより商店街の一体感を醸成 |
| ⑮ ホスピタリティの充実 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語講座の開催 地域の学校に通う学生を対象とした外国語ボランティアの企画・実施 ボランティア育成とボランティア文化の定着 町会・商店街・学校などと連携したまちの美化活動の実施 |
| ⑯ 観光案内の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 観光案内標識などによる観光案内の充実の検討 |
| ⑰ パブリックアートやベンチの設置 | <ul style="list-style-type: none"> 設置場所やデザインの検討 |
| ⑱ まちを盛り上げるイベントの開催 | <ul style="list-style-type: none"> けやき広場を利用したイベント開催 まち歩きフォトコンテストの開催 馬術競技に関する展示会の開催 テストイベント開催に伴う関連イベントの企画・開催 |
| ⑲ ごみ収集の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ごみ袋のデザイン検討 |
| ⑳ まちの情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> 観光ホームページやアプリなどを活用した「馬事公苑界わい」の紹介 地域の魅力ある資源などをまとめたマップ等を作成・配布 区内の様々な魅力をPRする観光冊子の作成・配布 |

① 安全な歩行者空間の確保

安全な歩行者空間を確保するため、最寄り5駅(千歳船橋駅、経堂駅、上町駅、桜新町駅、用賀駅)から馬事公苑までの歩行者ルート及安全・安心及び利便性の向上を図ります。



● 区道の一部区間の電線類地中化事業実施

一部区間の電線類を地中化することにより、安全性・快適性、良好な景観形成や防災性の向上を図ります。

● 一部区間の街路灯の整備

電線類地中化を実施する区間では、ソーラーパネル付きLEDなど、環境負荷の少ない街路灯の設置を検討します。

● 道路通称名の設定

東京2020大会を契機に馬事公苑東側区間などの道路通称名を設定し、広めます。



[参考：東京都建設局 東京都通称道路名地図・世田谷区 道路通称名路線図]

● 道路標識の英語併記化

一部の標識は、ローマ字併記と英語併記が混在していることから、英語併記に統一します。



道路標識の英語併記の例

● 馬事公苑周辺の交通環境改善の検討

最寄り5駅から馬事公苑までの歩行者ルートにおいて、交通環境の改善を検討します。



適切に整備された誘導ブロック

● 舗装や視覚障害者誘導用ブロックの補修・改善

すべての人が安心して利用できる空間を整備します。

② 公共交通施設のユニバーサルデザインの促進

すべての人が安全かつ円滑に利用できるよう、必要な施設の改善を検討し、各管理者に働きかけを行います。



多言語表記されたバス停



ピクトグラムを用いたサイン

③ サイン整備

● 最寄り5駅から馬事公苑までのサイン整備

駅から会場まで、会場から駅まで、わかりやすく、安全に、そして楽しく歩けるようなサインを整備します。



様々な表示方法を用いたサイン



地域の個性を活かしたサイン



見やすさを工夫した案内サイン

● デジタルサイネージの設置

駅前など、ある程度人が集まれる場所を選定し、デジタルサイネージの設置を検討します。

平常時は、商店街のPRや世田谷区のお知らせなどを提供する広告媒体、震災時には一度に多くの人々に必要な情報を提供できる便利なツールとしての活用を検討します。



商店街のデジタルサイネージ



駅のデジタルサイネージ

【デジタルサイネージ】屋外・店頭・公共空間・交通機関など、あらゆる場所で、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムを総称して「デジタルサイネージ」と呼びます。

④ 環境への配慮

● 街路灯のLED化の促進

商店街などのLED街路灯の更なる普及を要請します。公共施設内や街路灯の一層のLED化を促進します。



LED化された街路灯の例

● 省エネルギー技術の積極的な導入

自然エネルギーや次世代エネルギーの活用などを検討するとともに、省エネルギーのための取組みを進めていきます。



区が平成29年度に導入予定の水素で走る燃料電池自動車

● 遮熱性舗装などの整備

遮熱性舗装による路面温度上昇の抑制を実施します。



遮熱性舗装(農大通り)



遮熱性舗装(補助第154号線)

コラム②

前回のオリンピックの シティドレッシング!

前回の1964年(昭和39年)のオリンピックでは、次のような分担の下に大会歓迎に向けた取組みを行いました。

- ◎大会会場及び周辺の装飾 → 大会組織委員会
- ◎都庁、高速道路1・4号線、
晴海ふ頭、日比谷公園、都電、都バス → 東京都
- ◎都内の街灯装飾 → 「装飾基準」に基づき区市町村などの
公共団体及び商店会、
町内会など民間の自主的な実施

民間の実施した歓迎装飾は、主として、街路灯や軒先に小旗(大会旗、日章旗など)や大会マーク提灯を取り付けたり、あるいは、小型の万国旗を商店街に飾ったりといったものでした。これらは、各区市の商店街連合会や町会などによって実施されました。



世田谷区の歓迎塔

【世田谷区の歓迎装飾】

| 装飾方法 | 数量 | 装飾場所 |
|------|--------|--|
| 歓迎塔 | 8基 | 区役所前、馬事公苑正門ほか ※備考:東京大会マーク使用 |
| 花時計 | 1基 | 駒澤オリンピック公園体育館横 ※備考:直径10m |
| 小旗装飾 | 1,640基 | 玉川通り、環七通りほか 競技場周辺、主要街路灯、電柱 ※備考:国旗、区旗、五輪旗3本1組 |
| | 2,500基 | 商店街 ※備考:国旗、大会旗、参加国旗 3本1組(区と商店街連合会) |

「第十八回オリンピック競技大会東京都報告書」より抜粋

⑤ 防犯への取り組み

● 防犯カメラの適切な配置

東京2020大会開催を契機に必要な箇所の調査を行い設置します。

● まちなかの死角となるような場所の有無を調査・改善

まちなかの死角など、事前に取り除ける危険については、調査・改善します。

⑥ まちなかのお休み処の確保

● 公共施設の開放

最寄り5駅から馬事公苑までの歩行者ルート沿道付近の公共施設開放を検討します。

現在「熱中症予防 お休み処」として開放されている施設を、東京2020大会開催時間に合わせた利用時間延長について検討します。

● 空き店舗などの活用

世田谷区商店街連合会などと連携し、空き店舗などをまちなかのお休み処や、世田谷の地域資産（東京都エコ農産物、世田谷みやげ、観光スポットなど）をPRする場としての活用を考えます。

せたがや“涼風マップ”



⑦ 公共トイレの改修

和式便器の洋式化など、既存公共トイレを改修します。

最寄り5駅から馬事公苑までの歩行者ルート沿道の学校やコンビニエンスストアをはじめとする民間施設などと、大会期間中のトイレ使用について協議します。

⑧ Wi-Fiの整備

主に外国からの来街者の利便性向上につながる無料のWi-Fiのアクセスポイントをけやき広場や最寄り5駅などに整備します。

⑨ 応援キャラクターを活用した気運醸成

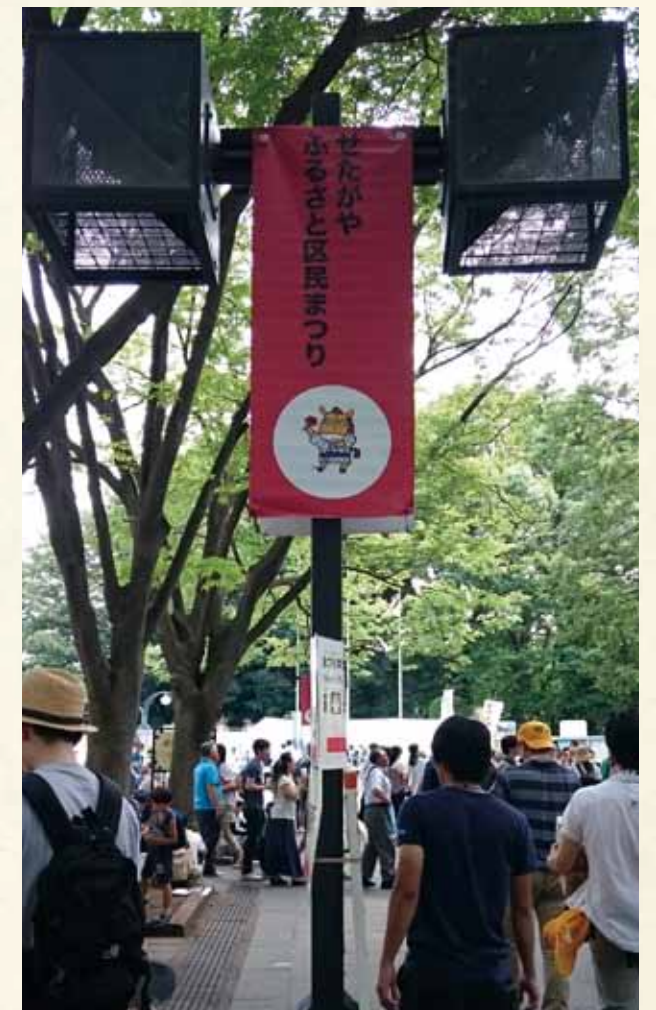
東京2020大会の馬術競技を盛り上げる応援キャラクターを作成します。また、「気運醸成グッズ」などを製作・活用します。

⑩ フラッグなどの作成

モチーフや応援キャラクターなどを取り入れた、まちの魅力づけのためのPRフラッグのデザインを検討します。

大会組織委員会との連携を図るとともに、区独自のフラッグを作成する場合は、大会後にも“まちなか観光”に役立つものとして活用できるものを設置します。

世田谷区商店街連合会などと連携し、商店街を中心とした設置を考えます。



区民まつりのフラッグ(けやき広場)

⑪ みどりによる演出

● 植栽やフラワーポットによる演出

既存ボランティア組織や地域住民などとの協働による沿道景観づくりを実施します。目に見えるみどりの量を重視して、剪定に配慮します。大規模敷地の緑化などによる歩行者空間の演出を検討します。

住宅などには、球根やフラワーポットの配布など、宅地内緑化への協力促進を検討します。街路灯へのハンギングバスケット設置を検討します。

樹木や花壇の世話を引き受けてもらうこと(アダプト制度など)も合わせて検討し、地域内の一層の緑化を促進します。



ハンギングバスケットによる柵の緑化



「みどりと花いっぱい運動」による緑化



ベランダの緑化



ハンギングバスケット設置可能な街路灯

● みどりのネットワークの形成

みどりの拠点である馬事公苑を起点とした、みどりのネットワークを形成します。

小規模でも貴重なみどりとして捉え、フラワーポットやハンギングバスケットで演出します。生垣の推奨や街路樹の樹形拡大など、目に見えるみどりを創出します。

新たな保存樹の指定に取り組みます。

ヒアリングやアンケートを行いました!

馬事公苑界わいの町会や商店街などへのヒアリング調査

ヒアリング調査では、テーマカラーについて、次のようなご意見が出されました。

青空の「空色」

馬事公苑のイメージから「緑色」と馬の「茶色」

「馬事公苑界わい」の最寄り駅が5駅であり、各駅から馬事公苑までの区間をそれぞれ「五色」で演出してはどうか

「せたがやふるさと区民まつり」におけるアンケート調査

「馬をモチーフにしたデザインを検討する場合、どのような姿やパーツを用いるのがふさわしいか」という問いに対して、約7割の方が「走っている姿」と回答されました。

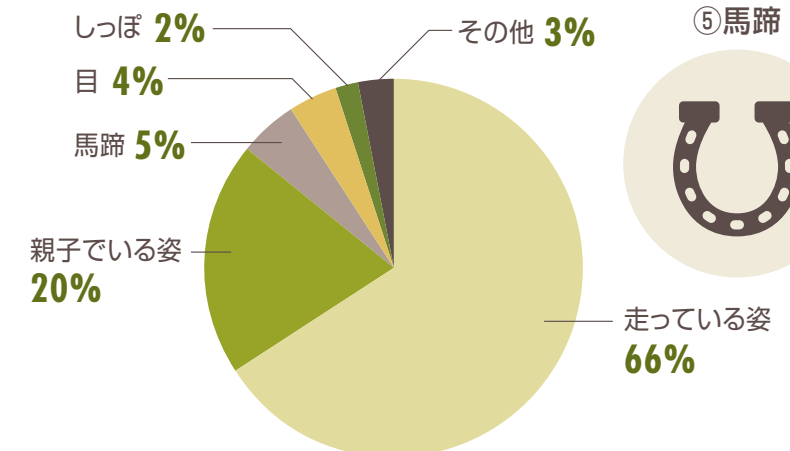
①走っている姿 ②親子でいる姿



③目 ④しっぽ



⑤馬蹄



⑫ まちのユニフォームの作成・活用



様々なボランティア活動のユニフォームをデザインします。

ボランティアユニフォームの例(リオデジャネイロ)

⑬ 「がやリン」を活用した演出

世田谷区のコミュニティサイクルシステム(愛称「がやリン」)で使用している自転車に、オリジナルなデザインや色を使った飾り付けなど、気運盛り上げを実施します。



コミュニティサイクルポート



がやリン(日ぎめカード)

がやリン
(パンフレット)

がやリン
(定期・電動アシストカード)

⑭ 商店街の一体感の醸成



商店街での気運醸成の取組み(イメージ)



地域の商店街で使うグッズなどを共通化し、商店街間の一体感を創出します。

グッズのデザインを公募し、イベント化することで、地域への愛着を生むきっかけを創出します。

⑮ ホスピタリティの充実

● 外国語講座の開催

商店主や地域住民を対象にした外国語講座の企画・運営を検討します。

● 地域の学校に通う学生を対象とした外国語ボランティアの企画・実施

商店街において外国人とのコミュニケーションをサポートする学生ボランティアの企画を検討します。

● ボランティア育成とボランティア文化の定着

手話のできる人、多言語対応が可能な人、まち案内ができる人などボランティアが身につけるバッジ等を作成します。

大会期間中のボランティア活動を拡大し、東京2020大会後のまちなか観光においても、ホスピタリティを維持し、文化として地域に定着させます。



ボランティアグッズの例

● 町会・商店街・学校などと連携したまちの美化活動の実施

町会・商店街・学校などが連携して取り組む仕組みづくりを検討します。

⑯ 観光案内の充実

案内標識などによる観光案内の充実を検討します。

多言語での表示や音声案内などについても検討します。



観光案内標識



⑰ パブリックアートやベンチの設置

まちゆく人々の憩い休める空間創出のため、パブリックアートやベンチなどの設置場所やデザインを検討します。



一休みできるベンチ(九品仏の参道)



区民参加による広場づくり(梅丘のまちかど)



キングとクイーンのベンチ(いらかみち)



一休みできるベンチ(いらかみち)



水道管を使った街路灯と壁泉(弦巻プロムナード周辺)

コラム④

「馬のいるまち」ワークショップを開催しました!

平成28年8月25日・9月1日の両日に「馬のいるまち～2020年のまちを考えよう～」と題し、馬事公苑界わいの小学校に通う子どもたちに向けたワークショップを開催しました。

当日は、JRA馬事公苑の協力で、バックヤードツアーと題し、馬や馬術競技についての様々な話を聞いた後、普段は入れない厩舎や蹄鉄をつける装蹄所の見学や、実際に子どもたちが馬に接する体験をしました。

バックヤードツアーの後は、東京2020大会開催に向けて、世界中から訪れる人たちに、まちを楽しんでもらうためのアイデアを絵や文字で表現してもらいました。(※ワークショップ作品集は、P.32、33に掲載)



⑱ まちを盛り上げるイベントの開催

● けやき広場を利用したイベント開催

けやき広場で、イルミネーション企画などのイベントを開催し、東京2020大会への気運を醸成します。



● まち歩きフォトコンテストの開催

「馬事公苑界わい」の街並み、祭りなどの写真を募集するコンテストを開催します。



フォトコンテストのイメージ



けやき広場を利用したイベントの例
(せとがやガーデニングフェア)

● 馬術競技に関する展示会の開催

馬術競技をパネルなどで紹介し、競技への理解を深めるとともに、東京2020大会に向けた気運の醸成を図ります。



馬術競技PR誌「馬術」

● テストイベント開催に伴う関連イベントの企画・開催



テストイベントを活用し、馬事公苑及び「馬事公苑界わい」をアピールします。

せとがやふるさと区民まつりのにぎわい

⑲ ごみ収集の工夫

● ごみ袋のデザイン検討

デザインされたごみ袋の配布もしくは販売などを検討します。



⑳ まちの情報発信

● 観光ホームページやアプリなどを活用した「馬事公苑界わい」の紹介

観光ホームページやスマートフォンのアプリなどを活用して「馬事公苑界わい」の情報をアピールします。

● 地域の魅力ある資源などをまとめたマップ等を作成・配布

地域で共有されている憩いの場や気持ちよく歩ける道などの情報をまとめ、多くの人が気軽にまちの魅力と出会えるようにしていきます。

● 区内の様々な魅力をPRする観光冊子の作成・配布

馬事公苑周辺の観光スポットをはじめ、区内の様々な魅力を集めた観光冊子を作成し、広くPRします。

誰もが区内観光を楽しめるよう、外国語版の観光冊子を作成・配布します。



冊子のイメージ

VI

段階ごとの魅力づくり

東京2020大会までの期間、開催中そしてその後の3ステップにわたり魅力づくりを進めます。開催前から開催期間にかけては地域の皆様のまちへの愛着や誇りを高め、地域との一体感を醸成します。

また、東京2020大会後にも継続してまちづくりが進められるようなレガシーをデザインしていきます。



ハンギングバスケットや街路樹等で緑化された千歳通り

ステップ1

開催に向けた効果的な整備

5つの駅から馬事公苑までの歩行者ルートに沿った整備

会場へは公共交通機関から徒歩により誘導することになります。最寄り5駅から約1.5kmの距離を迷わず、安全に、そして楽しく歩くことができるような取組みを進めます。

大会を盛り上げるデザインになるようオリジナルな整備

ワールドクラスの馬術競技に心躍らせながら、世界中から多くの方々々が馬事公苑に集まります。競技観戦後は興奮と余韻に浸りながら馬事公苑を後にする、そんな方々の心を想い、このまちならではのまちの盛り上げに向けた整備をします。

ステップ2

東京2020大会期間中のおもてなしの実行

会場を中心とした、地域が一体となって行うおもてなしにより、まちの魅力や心意気を積極的にアピールします。



ステップ3

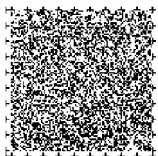
未来に向けて

東京2020大会がゴールではありません。私たちは東京2020大会を通じて未来を見据えています。

「1964東京大会」と今回の「東京2020大会」とで2回目の世界大会が開催されるという誇り。また、普段から馬と親しめ、誰もが訪れることのできる、都内でもここにしかない公苑。みどり豊かな住宅地と、魅力溢れる商店街。多くの地域資産、歴史資源。未来を担う子ども達にこのレガシーを受け継ぎ育てていくため、まちの主役である地域の皆様と連携し、「馬事公苑界わい」の魅力向上を目指していきます。

「馬のいるまち」ワークショップ作品集





平成29(2017)年3月発行

発行・編集／

世田谷区都市整備政策部都市デザイン課

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27

TEL 03 (5432) 2028

FAX 03 (5432) 3084

編集協力／株式会社UG都市建築

広報印刷物登録番号 No.1455

